



やまざとの風

～心をこめた「あいさつ」「校歌」輝く「笑顔」～

山里中学校だより（学力調査）

2025. 10. 1 号 学力について

文責 小森 悦夫

本年度行われた学力調査の結果と課題の解消に向けての「学力向上対策」についてお知らせします。

【第3学年 全国学力調査・学習状況調査から】※全国と長崎県の結果との比較

《国語》どの観点においても、長崎県や全国の正答率は変わりませんが、文章の内容に適した漢字や語句が使えない状況がままあります。また、条件に基づいた「書くこと」では、無回答こそ少なかったですが、不正解の生徒が多く見られました。「読むこと」においては物語における表現の効果に気づいたり、根拠を明確にして考えを持ったりすることに苦手意識があるため、根拠を明確にして書いたり、話したりできる力や読み手を意識した文章を書く力を伸ばす授業の工夫をしていきます。

《数学》長崎県の正答率を若干上回る結果となりました。ただし、素数や相対度数の意味など、基礎的な学習内容を忘れていた生徒が多く見られました。自ら進んで復習に取り組む態度を養うように、日々の授業の中で指導をしていきます。

《理科》標準的な問題や記述問題に関しては、県や全国の平均値と似通っていますが、3学期の学習内容（1年地学分野、2年電気分野）については、やや低い傾向にあります。基本的な語句やその意味を理解できていないか、問題の指示を最後まで読まずに解答している可能性があります。繰り返し指導した内容については、大幅に高い結果が見られました。

授業の数分もしくは朝のモジュールの時間を利用して、キュービナを活用しながら既習の基本事項の確認や基礎的な問題の復習をさせます。また、自分の問いをもって授業に臨み、思考力・判断力・表現力を向上させるような工夫をした授業展開を目指します。

【第2学年（国語・数学）・第3学年（英語） 長崎県学力調査から】※長崎県と長崎市の結果との比較 《第2学年国語》

どの観点でも、長崎県や長崎市の正答率とあまり変わらない結果となりましたが、条件作文になると正答率が極端に低くなっていました。目的に沿って、的確に書く力が足りていない生徒が多いため、単元の振り返りや、言語活動において「書く」ことの条件をつけて、ただ書かせるだけでなく、段落ごとの役割を決めて的確に書く習慣をつけていきます。

《第2学年数学》

全体的に、長崎県や長崎市の平均正答率を大きく上回りました。ただし、数学的な表現を用いて説明する問題に対して、苦手意識が強く無回答率が高い結果がみられます。必要な情報を適切に読み取って粘り強く考える授業の場面設定をしていきます。

《第3学年英語》

「書くこと」の領域において、正答率が高く、無回答率が低い状況がありました。適切な表現を用いて英文を正確に書いたり、自分の発言として適切な英文を書いたりすることができる生徒が増えたということがわかりました。また、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるようになっていますが、必要な情報を読み取る力が低い傾向にあることがわかりました。

【第1学年 長崎市標準学力調査から】※全国と長崎市の結果との比較

《国語》全国や長崎市ともに総合平均点は大きく変わりませんが、無回答率が高く、文章を書くことが苦手な状況があります。また、文法・語句について、小学校で学習した範囲の定着ができていない状況があるため、「書く」機会を増やし（手立てとしては、書きたいと思えるようなテーマの工夫を

する。小学校で学習した範囲の復習を行いながら丁寧に授業を進めていくとともに、理解度を図るため、小テストを多く実施します。

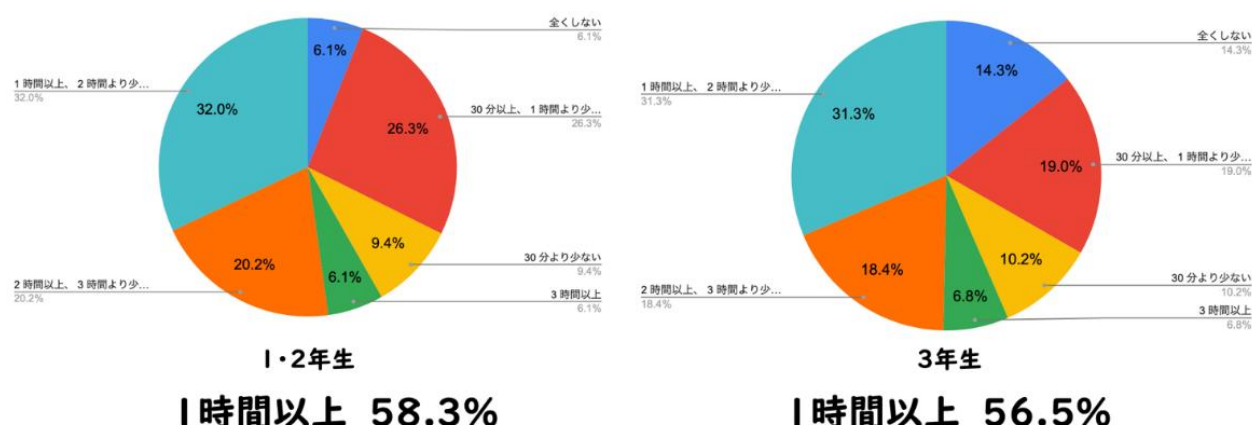
《数学》全国や長崎市ともに総合平均点は大きく変わりません。しかし、基礎で点数が取れている一方、活用では低い数字が出ています。記述式の問題は無回答率が高く、すぐに答えが出ない問題に対して、粘り強く考える力をつける必要があります。

質問紙調査の結果から

全国学力・学習状況調査（小学6年生・中学3年生対象）には「質問紙調査」があります。本校の中学3年生の結果をみると、次の点が特徴的でした。

- ・学習した内容について、分かった点や分からなかった点を振り返ることができている生徒が全国平均を上回り、学習に対する姿勢は高い評価。
- ・分からないことや詳しく知りたいときに自分で学び方を工夫している割合は全国平均を下回り、課題解決に主体的に取り組む姿勢に弱さがある。

昨年度までの研究テーマ「自己調整力を育む」では、学習に向かう姿勢の改善に一定の成果がありました。今年度は「問いを立てる」「自己調整力」「個別最適な学び」をキーワードに、さらに主体性を育てたいと思います。また、学校評価の結果から「家庭学習の習慣化」が課題として挙げられました。特に平日の学習時間が短い傾向が見られます。学年が上がるにつれて家庭学習をしている割合が高くなるよう、今後も学校として指導を続けていきたいと思っています。



本校の学力向上対策

授業の充実に向けて

- ☐ 授業改善・指導力向上・・・研究指定を受け、授業改善と学力向上を目指す。生徒が「問いを立てる」「自由進度学習を取り入れる」授業を工夫。
- ☐ モジュール学習・・・朝の10分間で5教科の問題演習。基礎力向上を図る。
- ☐ ほっとタイム・・・放課後に質問教室を開設。30分間、教科担当が指導。
- ☐ きめ細かな学習支援・・・複数教師によるTT授業を展開。学習支援員や大学生を活用。

教育活動の充実

- ☐ キャリア教育・・・職場体験や講話、キャリアパスポートを活用。
- ☐ 家庭学習の充実・・・各教科で家庭学習の取り組みを推進。
- ☐ 生徒の意欲・意識向上・・・学習意欲を高めることを目的として生徒会や各学年、教科を中心に対策を考え実行。

令和7年度の本校の学力向上プランは、HPにも掲載していますのでどうぞご覧ください。